

6月16日(月)

主の命令は分かりずらいことでもなく、遠くにあるものでもない

聖書朗読 申命記 30：11～14

では、どう言っていますか。「みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは私たちの宣べ伝えている信仰のことばのことです。

ローマ 10：8

モーセが亡くなる前に最後の説教を終えようとする時、その日、イスラエルの人々に伝えたことについて語りました。神様が自分たちに何をして欲しいかを知るのに、天に上ったり、海を渡って遠い国に行ったりする必要はないと言いました。

モーセが教えたことは彼らの能力や忍耐力を超えるものではないと伝えたのです。むしろ、神様が彼らに一番して欲しいことは、彼らの口と心にあると言いました。そして、「ただ行いなさい」ということばで締めくくりました。パウロはローマのクリスチャンたちに手紙を書いたとき、モーセの言葉を引用しました。

私たちの人生に対する神様のみこころには、私たちが知らないパスワードがかかっている開けない訳ではありません。神様のみこころは、私たちが見つけられない所に隠されてはいません。神様が私たちにして欲しいことは、膨大な才能や教育を必要としません。みことばはごく身近にあります。私たちの口にあり、心にあります。神様はみことばを手が届く所に置いてくださいました。私たちの応答は、みことばを読み、読み直し、考え、そして従うことです。分かりづらいことではなく、かけ離れていることでもありません。

讃美歌第二編 163 主イエスのみ名こそ

祈り 最愛の神様、あなたが私たちの手の届く距離に、私たちが理解出来る範囲に置かれたもの、みことばに親しむ時間を持てますように。イエス様によってお祈り申し上げます。アーメン。

オクラホマ州 エドモンド / ハロルド・シャンク



今日の力

2025年6月16日 ～ 6月22日

翻訳 ダニエル・ハドルストン

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は新改訳聖書第三版を使用しています
※翻訳・編集以外でも協力して下さっている兄弟姉妹がいます

御茶の水キリストの教会

6月17日（火）

ボスは誰

聖書朗読 ヨシュア記 24：6～15

あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があつてはならない。 申命記 5：7

末息子は自分がボスであるべきだと思い込んでいました。私が仕事から帰ると、「ここに座って」とか「それして」などと命令しました。息子は二歳でした。彼を座らせ教えようと思いました。請求書を支払ってるのはパパだからパパがボスだよと。彼は僕を見て「ここに座って」と言ったので、座りました。

十戒を覚えていますか。第一の掟で、ヤハウェの神様は、ご自分が神であり、ほかの神々があつてはならないと宣言されました。神様がボスです。イスラエルの子らはエジプトの偶像に囲まれて四百年間過ごしました。彼らは真実を知る必要がありました。神様こそ唯一無二のボスであると。

誰でも趣味やライフスタイルを偶像に^{まつ}祀り上げることができます。自分が創ったものを神様の座に入れ替えるのです。余暇を独占する趣味、完全な献身を要求する仕事、自分がボスだと思わせる昇進や賞等々。

神様は私たちの心をねたむほど激しく愛しておられます。『あなたの神、主は焼き尽くす火、ねたむ神だからである。』（申命記 4：24）神様がねたむのは、私たちを愛し、私たちに嘘ではなく真実に生きて欲しいからです。神様はご自分のために私たちを創造されました。それほど私たちを愛していっぱいします。あなたのボスは誰ですか。

讃美歌 168 イエス君の御名は

祈り 最愛の主よ、あなたと競争しようとする存在を私の心から排除してください。あなたは私の神様で、我が心の完全なる献身を要求します。私を愛してください。ありがとうございます。イエス様の御名で。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル / ジョッシュ・バーネット

6月18日（水）

注意（気にかける）！

聖書朗読 ヨシュア記 24：14～24

「やめよ。わたしこそ神であることを知れ。わたしは国々の間であがめられ、地の上であがめられる。」 詩篇 46：10

教会に通う時も様々な用をする時も、気が付くと同じルートを運転しています。でもよく見れば、気付かずに何百回も通り過ぎていたのに、何かを初めて見つけます。注意を払っていなかったのです。

学校の先生は「注意して。テストに出るかもしれませんよ」と言います。親は「注意して。あなたのためだから」と言います。神様はろばの口を通して語られ、バラムの注意を引こうとされました。バプテスマのヨハネは『悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。』（編注 マタイ3：2）と言って、民の注意を引こうとしました。イエス様は『全世界に出て行き、全ての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。』（編注 マルコ 16：15）とおっしゃって、私たちの注意を喚起されています。ゲツセマネの園でイエス様は、ペテロ、ヤコブ、ヨハネに、十字架上でのあがないが近づいているから、注意して目をさましているようにとおっしゃいました。

神様は大いなる愛のために常に私たちに注意を払ってくださっています。今日、私は神様のすばらしさ、みことば、神様がお造りになった人々に目を留めて、お仕えしたいと思います。

私たちが本当に愛するものに、私たちは注意を引き付けられるものです。

讃美歌 162 あまつみつかいよ

祈り 主よ、あなたの御言葉を毎日読みながら、あなたのみ教えに本当に耳を傾けることができますように。イエス様の御名で。アーメン。

カリフォルニア州 トゥーレアリ / レイチェル・リップペンコット



6月19日（木）

絶対 “絶対” と 言 う な

聖書朗読 士師記 2：1～10

わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、そしてあなたの後のあなたの子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしがあなたの神、あなたの後の子孫の神となるためである。

創世記 17：7

絶対、“絶対”と言っちゃダメ。ありふれた台詞です。どうしてでしょうか。明日の出来事は誰も知らないからかも知れません。経済、家族、教会でさえも、物事は変わる傾向があるものです。

イスラエルの民が約束の地に入った初期の頃には多くの変化がありましたが、良い変化ではありませんでした。忠実な礼拝は偶像崇拜に変わり、神様の救出の思い出は忘却のあなたに消えてしまいました。ヨシュアの死後、大幅な変化がイスラエルの人々の上になりました。

でも、それで今日の朗読箇所の話は終わりません。イスラエルの変化の海にあっても、ご自身の契約を守ろうとされる神様の決意は一度も揺るぎませんでした。神様は“絶対、絶対と言うな”というルールを破って、『わたしはあなたがたとの契約を決して破らない。』と宣言されました。勿論、神様は絶対的なお方であり、すべてをご支配していらっしゃるお方です。そして、そのお約束は古代イスラエルから現在に渡って及んでいます。

“絶対、絶対と言うな”の世界でも、神様の契約で結ばれている民に対する忠実な絶対変わらなかったし、これからも変わりません。私たちが自分の目に正しいと思うことをする時も、神様の愛に溢れた眼差しは私たちに向けられています。神様は私たちと関係を持ちたいと望んでおられます。そして、それは絶対変わりません。

讃美歌第二編 191 主のまことはくしきかな

祈り 父よ、あなたの変わらない愛は時代を越えて及んでいます。あなたの私たちへの愛は色褪せません。あなたへの私たちの愛を改めて燃え立たせてください。イエス・キリストの御名によりお願い、お祈り申し上げます。アーメン。

ノースカロライナ州 ダーラム / パトリック・メッサー

6月20日（金）

知 恵 あ る 助 言

聖書朗読 列王記 第一 12：1～15

密議をこらさなければ、計画は敗れ、多くの助言者によって、成功する。

箴言 15：22

誰にアドバイスを求めますか。レハブアム王には下すべき決断がありました。ソロモン王が崩御した後、ヤロブアムはエジプトから帰還して、もしレハブアム王が父ソロモン王が民に負わせた過酷な労働と重いくびきとを軽くしてくれれば、レハブアム王に仕えようと提案しました。

レハブアムは最初、ソロモン王に仕えていた長老たちに相談すると、彼らは提案を受け入れるようにとアドバイスしました。でも、レハブアムは別の意見を聞きたくて、幼馴染の若者たちにも相談しました。彼らはヤロブアムの提案を拒否して、仕事を増やすぞと脅すようにとアドバイスしました。そして、ヤロブアムは神の命令に背いたことが聖書に書かれています。

私たちが難しい決断を突き付けられるとき、自分が聞きたいアドバイスを言ってくれるだろうと思う人のところに行くのは簡単です。でも一般的には、それは聖書が薦めるアドバイスではありません。パウロは、年配の男の人に若い男の人を教えるように、年配の女の人に若い女の人を教えるようにと書いています。（編注 テトス 2：2～6）

“亀の甲より年の功”で、長生きしている人は伝えられる教訓を沢山知っています。もしレハブアムが長老たちの助言に耳を傾けていたら、事の成り行きはどんな風になっただろうか。

讃美歌 339 きみなるイエスよ

祈り 最愛の主よ、人生経験豊かで、色々なことを学んでいる、あなたに従うために正しい決断をするのを助けてくれる多くの人々に、私たちを会わせてくださってありがとうございます。知恵ある助言を求め、聞き、応答できる謙虚さをお与えください。イエス様の御名によって。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル / J・リチャード・トンプソン

6月21日（土）

ま ず 祈 り 賛 美 す る

聖書朗読 ヨブ記 1：13～22

真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。
使徒 16：25

今年は洪水に、火事に、竜巻に、暑さに、多くの人が甚大な損失や被害を被^{こうむ}っています。こういう出来事は新しいものではなく、聖書にも書かれています。でも、直に見たり経験したりすることは、書物で読むこととは違います。

もし自分または愛する人が直接影響を受けたら、あなたの最初のリアクションは何でしょうか。神様を責めたり、「なんで私が」と嘆いたりするのでしょうか。または絶望に陥るのでしょうか。最後に思い付くのは、「とにかく、祈ろうか」でしょうか。聖書は最初にすることが祈ることだと示しています。

パウロとシラスが何度もむち打たれ、足かせを掛けられて、牢に入れられたとき、彼らはどうしたのでしょうか。神に祈りつつ賛美の歌を歌いました！ 私が同じ状況であったら、あまり歌う気になれないだろうと思います。でも彼らは歌いました。それで自分たちだけではなく、ほかの囚人たちも慰められました。

裕福だったヨブが一日のうちに持っているもの全てを失うという心張り裂けそうな知らせを受けたとき、彼はどうしましたか。主の御名をほめたたえました！ 何かを失った時、私たちがどう反応するかによって、私たちが神様をどう見ているか、また自分自身をどう見ているかという本当の見方が露わにされます。

讃美歌 79 ほめたたえよ つくり主を

祈 り 主よ、人生の嵐の中の港、我らの岩、我らの救世主よ。あなたの聖なる御名をほめたたえ、御子イエス様の御名によってお祈り申し上げます。アーメン。



ノースカロライナ州 ローリー / キャロリン・イエーツ

6月22日（日）

目には見えなくとも聞こえる

聖書朗読 詩篇4篇

知れ、主はご自分の聖徒を特別に扱われるのだ。私が呼ぶとき、主は聞いてくださる。
詩篇 4：3

我が家では目が見えなくて、驚きやすい犬を飼っていました。私がドアから入ると吠えますが、犬の名前を呼ぶとすぐに静かになって落ち着きました。私の声を知っていて、私を信用してくれていました。同じように、私たちも、呼ぶとき聞いてもらえるのは良い気持ちです。誰かが本当に聞いてくれる時、平安、喜び、安心感を感じます。

今日の聖書朗読は、聞いてもらい、答えを求め、平安を感じるための祈りです。その答えは富・食料・ガードマンなどではなく、私たちの祈りを聞いてくださる神様にあります。神様は私たちの呼ぶ声を聞いてくださるのだと知ると慰められます。私たちは神様の御声を、聖書のみことばに、静かな祈りの時に、みことばを宣べ伝える時に、神様に忠実な人たちの人生に、御声を聴くために内なる御霊を整えて聞きます。

耳を傾け、神様を求めて聞くととき（イザヤ 55：3）私たちはたとえ発信源が見えなくても、御声を認識し、知恵・平安・究極の喜びをいただけます。神様は常に『かすかな細い声』で祈りに答えてくださいます。（列王記Ⅰ 19：12）

讃美歌 42 みちからの日はかくれて

祈 り 最愛の主、あなたのみことばと創造物を通して、あなたの御声を聞くことができることに畏怖と感謝を感じています。私たちの祈りを聞いてくださってありがとうございます。私たちも他の人の声を聞くことができますように。そして私たちの声が彼らを慰められますように。イエス様の御名によって。
アーメン。

カリフォルニア州 サウザンド・オークス / スーザンK・ギボーネイ